

令和5年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和6年2月1日作成

| 中期目標 | 重点努力目標（評価項目） | | 自己評価 | 総合評価 | 達成状況と成果 | 関係者評価 | 学校関係者の意見・要望 | 今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて) |
|-------------------------------------|--------------|---|------|------|--|-------|--|---|
| | | | | | | | | |
| 成明確な目標をもち、目標達成への過程をより重視した教育活動を展開する。 | 目標をもって取り組む姿勢 | 生徒一人一人が明確な目標をもち、目標達成への見通しがもてるように指導する。 | B | A | 授業や活動において、開始時に目標を示し、終了時には振り返りの場面を設定した。家庭学習の支援としては、授業進捗を示すことで計画的に取り組めるようにした。自らすすんで取り組める生徒の割合が増えてきた。 | A | どの学年の生徒もとても落ち着いていて、意欲的に授業に取り組んでいる。先生たちがとてもわかりやすく教えていて、時には机間巡視をして丁寧に指導している。 | 今後も生徒一人一人に合った目標の提示や支援を地道に行っていきたい。そして、意欲の継続や達成感を実感できるような場面を多く設定したい。3年間を通した生き方教育の充実を図っていきたい。 |
| | 自ら振り返る習慣 | 節目となる場面では活動の振り返りを行い、次の活動にいかす。 | A | | | | | |
| 豊かな心を育てる。 | 肯定的に受け止める姿勢 | 「吉中おはなしタイム」で発表する力、聴く力を育てるとともに、相手を肯定的に受け止める姿勢を養う。 | A | A | 相手の方に体を向け、傾きながら聴く姿勢が多く見られるようになった。行事や活動において、相手を思いやり協力して物事に取り組む生徒が大勢いることがアンケート結果からも明らかになった。 | A | どの学年の生徒も先生の話や友達の意見をよく聞いている。話す側の声の大きさが気になる。吉中生は、いつも素直な態度で応対してくれて気持ちがよい。 | 今後も行事や活動の見直しを図り、更に意義あふれる行事、より質の高い活動を実践し、自己有用感や協働意識を高める取り組みを続けていきたい。 |
| | 協働意識を高める | 協働意識や達成感自己有用感の感得を目ざすための、個への働きかけや機会・場の設定を工夫する。 | A | | | | | |
| 学習を協働し、問題を解決する。 | 既習事項を活用する力 | 既習事項、身についた学習スキルを踏まえた学習活動を展開する。 | A | A | 小中でテスト(コンクール)週間を同時期に実施したり、継続的な小テストやドリル学習など、さまざまな手だてを講じ個別支援をしたりしたことで、学習の基礎基本が十分に身につけていると思う生徒が増加した。 | A | 中学生のお子さんをもつ近所の方から、家では全然勉強をしないと言っているとのこと。課題にしっかりと取り組むように指導してくれるとありがたい。 | 今後も個に応じた支援に力を入れ、わかるうれしさや学習した楽しさを使えるよう授業づくりを工夫していきたい。家庭学習への取り組みも支援していきたい。 |
| | 一人一人をいかに個別支援 | 生徒支援の観点から、個の特性を踏まえた個別支援を行う。 | B | | | | | |
| うしめよう。防災・減災の意識を高める。 | 危機管理意識向上 | 学級指導、講演、避難訓練等の機会を関連づけながら、危機対応の指導を重ね、危機発生時に備える。 | A | A | 地震・津波の避難訓練の見直しを図り、避難経路・避難場所を変更した。より現実に近い形を想定して訓練を行ったことで、緊急時の対応についての意識が高まった。 | B | 校区防災訓練に多くの生徒がボランティアとして参加してくれて大変感謝している。今後も防災リーダーとして中学生には大いに期待している。 | 今後は、より実効性が高く、行動力が身につく安全な教育活動を考え、緊急時の対応力を養っていききたい。学校教育全般を通して、命を大切にする教育を継続的に進めていきたい。 |
| | 危機管理能力の育成 | 正しい知識と対処法を理解し、危機回避に努めるとともに、緊急時の対処法を身につける。 | B | | | | | |
| 業の効率化をはかる。 | 教職員の資質向上 | ミドルリーダーを中心に、学校・学年分掌におけるOJTを若手職員に対し実践する。 | A | A | 本校は主任会が中枢となって、学年会・三部会（学習部・特活部・生徒支援部）が組織されている。三部会においては、若手職員が学ぶ機会が多くあり成果も出ている。働き方への意識改革が進み、昨年度より在校時間も減少している。 | A | 先生方が日々いろいろなことに取り組んでくれているおかげで成果が表れていると思う。先生の仕事はとも忙しいと思うので、健康にはぜひ留意してほしい。 | 教師力・授業力向上に向け、現職研修を活性化させる。会議の再編・新設を行うことで職員間の効率的で効果的な連携を図っていきたい。校務分掌の適正化を図り、教職員の負担軽減をよりいっそう進めていきたい。 |
| | 働き方への意識改革 | 心身の健康保持、家庭と勤務との両立などの重視をよびかけ、計画的に各種休暇を取得できるよう配慮する。 | A | | | | | |

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】